

資料2

平成31年2月19日

第2回建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会

(一社)全国中小建設業協会

若手経営者部会部会長

河津 修平

少子高齢化時代を迎え、これから 10 年後には現役で活躍している現在の 60 歳以上の高齢者の働き手が退職し、その分を若者や女性、外国人労働者に頼らざるを得ない状況になってくる。そのため、建設業界で働く意欲がわくような取組として、「新 3 K (給与・休暇・希望)」をスローガンに、週休 2 日制の導入や時間外労働時間の短縮、高賃金の実現など働きやすい職場環境を整える必要がある。

全中建協会としても「新 3 K」に向けた職場環境の整備について「働き方改革ガイドライン」に盛り込み、会員企業において取組を実践するよう要請し、地方ブロック毎に現状の課題整理や意見交換を行っている。中小建設業界にとって、実効性があり取り組みやすい具体的な施策を見出していくために、中小建設業界の現状の課題を提起させていただきます。

#### 【 現状の課題について 】

1. 団塊世代の大量退職に加えて、若手技術者を育成しきれず、技術者が建設産業から流出し続けている。
2. 建築土木を専攻する学生が減少しており、建設業への入職意欲も低下している。

#### 【 現状の課題に対する主な事由 】

1. 建設業界のイメージが他産業に比べて低い。  
工事現場 = 汚れた作業着、ヘルメット着用、迷惑産業、ガラが悪い(知的でない)、危険というイメージを現代の若年層や学生は職業選択時に「不安要素」として認識している。
2. 休暇がとれず残業も多く、且つ所得を労働時間単価で比較すると極端に安い。
3. 若年建設業従事者の多くは当初、「工事の面白さや醍醐味」「公共施設等完成に対するやりがい」を持って入職してくるが、上記 1.2. のマイナス要因のボリュームの方がバランスとして大きく、離職して行くことが多い。

学生が将来を考えたときにも同様で、特に親が建設業従事者であるが故に、「親からやめた方が良いと言われる」あるいは「親のように苦労したくないと考えた」というケースも多く見受けられる。

- また、これからの学生の傾向は、「自分で考え切り開く」より「与えられた中から選択」するタイプの割合が、より高くなるので、逆風は計り知れないものがある
- 4．育成側である企業も離職者が経年的に続くと、疲弊し感情移入できなくなってしまう悪循環もある。
  - 5．上記の状態は、大手ゼネコンより中小建設業界の方が圧倒的に強く、専門工事業はさらに強くなってしまわないか。

#### 【改善策として】

- 1．先ず所得改善が必要。

難しくてもきつくても、「やりがい」があり所得が他産業より高ければ、マイナスイメージはある程度払拭でき、「難易度の高い技術職に従事しているからだ」と自己完結でき、プライドと我慢の均衡が保てるのではないか。

所得改善のためには、ダンピング排除と大手・中小の棲み分け等が必須であり、建設業許可などの規制・罰則強化などを実施することによっても効果が期待できる

ここ数年は毎年度末に労務単価の実態調査を反映し、労務単価の引上げがなされており、この傾向が続き現場で働く労働者に行き渡ることになれば処遇改善に繋がることとなる。

- 2．週休2日制・時間外労働時間上限規制の移行に際して。

「やりがい」や高所得が得られれば、労働時間については、改正労働基準法の時間外労働時間の上限規制の範囲内において許容できると思われる。当然ながら労働時間が短縮されても所得が低下しないことが条件となる。週休2日制や時間外労働時間上限規制の導入に際して、特に中小建設業については、十分な経費が必要であり実態に即した調査・導入が必要である。

- 3．「やりがい」を率直に得られる環境が大切。

発注者や設計監理者から、膨大な書類作成や非効率的な修正を余儀なくされることは、「やりがい」と相反する環境なので、更なる提出書類の効率化を図ってほしい。

- 4．就労環境の改善が必要。

詰所・休憩場所の改善が必要です。現代社会において、休憩時間に地面に腰を下ろして休憩する業界は他にはない。その光景を通りすがりに見た方々はどのような印象を受けるだろうか。

また、通勤時には着替えを奨励し、更衣室設置の義務化なども効果があると思われる。作業後の帰宅時に満員電車で汚れた作業着のまま乗車することがなければ対外的なイメージも向上するが、これらを履行するためには当然のことながら費用が必要となる。

5. 上記の改善策を進めるためには、

公共工事でも民間工事でも、発注者・設計監理者との「危機状況を打開していくため認識の共有と施策・ルール」が必要であり、特に公共工事であれば、発注者の役割は大きく、建設業界内だけで効果的に解決できる事項は乏しく、発注者・設計監理者との協働が必要不可欠である。

上記の他、イメージアップ広報や受賞制度など多くの改善策があると思われるが、結果として上記の事項について抜本的な改善につながらなければ、一過性の投資となってしまう。

建設業の仕事自体は、膨大な知識と技術力を必要とし多様な施設を完成させるなど、今も大きな魅力にあふれている。

しかしながら、長年の間、変わることなく景気の影響を直接的に受け続け、過当競争や不当競争により体力を奪われ続けてしまった結果、疲弊しきってしまった高コスト体質というバランスが悪い状態に陥ってしまっている。高コスト体質から脱却し、将来のインフラ整備・民間建設投資に前向きな予測を可能にしていくためにも、発注者・設計監理者・受注者が協同して、多面的に効率化の検討を行う必要がある。

以 上

資料2

平成31年2月19日

第2回建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会

(一社)全国測量設計業協会連合会 会長

野瀬 操

# 働き方改革、担い手確保に向けた取組み

## 未来を創るはじまりの仕事

2019年2月19日



一般社団法人

**全国測量設計業協会連合会**

地図を見ながら歩いた先は  
測量しなければ、会えない景色。  
だから私は、この仕事を選ぶ。

測量設計業を含めた建設関連業においては、労働環境が厳しく、経営環境も厳しい中で若手技術者が増えず、技術・技能の承継が困難な状況となってきました。

全測連では、測量設計業の担い手確保のためや社会からもっと認知していただけるよう、国への施策要望を継続するとともに、私たち自ら働き方改革への取り組み、広報活動に取り組んでいます。



**測量設計業をもっと理解してもらい、社会的な認知度を上げることで、会員の方々のやりがいと、担い手確保に寄与させたい。**

2

## ■ 災害対応

【使命】

災害発生時、私たち測量設計業者は災害発生初期段階に現地に入り、その詳細な現況を把握します。その情報がなければ、その後の復旧、復興を迅速に、かつ適切に進めることが出来ません。

はじまりの仕事  
測ることから復旧は始まる



東京都測協の統一作業服



被災現場での測量技術者達（広島）

3

# 被災現場で、内業で頑張っている技術者のモチベーションを上げるために！

- 被災現場での被災調査や内業を含め、災害時には長期間にわたる労働を余儀なくされる。この時間外労働を伴う長期労働に対して、『**労働基準法第33条第1項に基づく許可**』の範囲を明確にする取組み。
- 平常での**業務発注の平準化への取組み**。
- 災害時に被災調査、災害査定業務等の対応に混乱が生じ、結果として**復旧・復興が遅れないようにするためのしくみづくりへの取組み**。



## 災害時に被災現場で重要な役割を担う人材が著しく不足

災害対応のみならず、今後の地域インフラを維持するためにも、何としても各地域における**担い手確保の施策**に取り組まなければなりません。

4

## ■ 広報活動

### 人材確保・育成の取組み

- 国交省建設産業局との取組み  
社会的認知度向上のための取組みとして、就労前の学生等を対象に、測量設計業の社会的役割及び業務内容について紹介するとともに、大学・高専において説明会を開催。
- 国土地理院との取組み  
各種イベントで測量・地図業界の魅力発信、ホームページ等を活用した測量設計業の役割や重要性を広く周知。
- 都道府県測協の取組み  
測量のイメージアップや魅力をアピールする独自の取組み。



### 未来を創る はじまりの仕事。

地図を見ながら歩いた先は  
測量しなければ、会えない景色。  
だから私は、この仕事を選ぶ。

測って、描いて、解決する。測量と地図。

広報推進協議会(測量・地図作成分野)

測量の役割や重要性等について、多くの皆様にご理解いただき、関心を持って頂くために2015年に発足した団体です。測量に関わる産学官の関係者が一体となって取り組みの推進を図っています。

(一社)全国測量設計業協会連合会 (公財)日本測量技術協会  
(一財)測量専門教育センター (一財)日本地図センター  
(一社)地図測量技術協会 国土交通省国土地理院  
(公社)日本測量協会



5

# 業界の発展と担い手育成のフラッグシップモデルに 【東京都測協】

## 基準点インフラツーリズム、基準点カード

■ 測量基準点や測量史蹟をつなぐルート歩いて巡り、測量や地図について知的好奇心を満たすことを期待。若手の人材育成に取り入れる試みとして新人研修の時期にインフラツーリズムを計画。



都心部の基準点カード一覧図



基準点カード「水準原点」(表)



基準点カード「水準原点」(裏)



2018年4月 協会各社の新人約100名が参加  
ゴールの「水準原点」で記念撮影

## ■ 出前講座等

### 事例① 「職業訓練法人SD学院」の活動【福井県測協】

先端技術に対応できる人材を育成し明日の人を育て、未来を育てる。

- 会員従業員の資格取得と技術向上を目指して、協会内に「職業訓練法人 SD学院」を設立（平成8年）。
- 新しい技術の吸収にも積極的で、国・県の動きも解る講習会となっており、定数15人のところ、約2倍の参加者。



ドローン演習例

## 事例② 出前講座等【山梨県測協】

### 「私の学校はここにある」プロジェクト

平成23年より、小中学生を対象とした測量の出前講座やTSなどを使った簡単な測量、歩測などを経験し、若い世代から「測量」の仕事に興味をもつ機会とするとともに、測量設計業について理解を深めてもらうことを目的に実施している。

- 平成14年に、世界測地系に統一されたことに伴い、平成14年以前に学校に設置された経緯度標を世界測地系に準拠した正確な経緯度及び標高を求め、新しい経緯度標を設置する。現在、県内8校の小中学校において改測、設置が完了。
- 学校が地球上のどの位置にあるのかを認識し、測る技術、IT技術等の学習にも役立っている。この講義を受けた子供たちが、10年後の将来、測量業界に係わる技術者になる小さなきっかけになることを期待する。



中学校での測量の出前講座

8

## 事例③ 平板測量競技大会を支援【福島県測協】

### 農業高校の甲子園

毎年、福島県学校農業クラブ連盟主催により、技術競技大会平板測量競技が開催され、授業や学校農業クラブ活動を通して学んだ測量の専門的な知識や技術を競う“農業高校の甲子園”と呼ばれている。

- 当協会から競技フィールドの設営、審査委員として参加し、競技大会を支援。
- 表彰式において、協会会長名で最優秀チーム及び、優秀チームを表彰。



協技大会の様子

\* 同様の測量競技大会は、全国各地でも行われている。

9

## ■ 女性の会、委員会、セミナー活動

### 事例① 「女性の会」【東京都測協】

「女性が働きやすい職場環境」をテーマに意見交換。

- 1) 休暇の取りやすさ
- 2) 時間外労働について
- 3) ハラスメントについて

### 事例② 「次世代研修委員会」【石川県測協】

担い手不足という業界全体の課題を深刻に捉え、10年20年先を見据えた活動。

- 1) 業界の魅力をPR
- 2) 女性の活躍推進を応援
- 3) 働きやすい職場環境を実現

### 事例③ セミナー活動

国や県及び関連団体と協力して各地で講習会やセミナーを開催。

- 全測連：G空間EXPO2018講演・シンポジウム（知っ得！測量時事情報セミナー）  
平成30年11月16日（金）日本科学未来館  
「国土強靱化に対応した国及び測量・設計業団体の活動状況について」
- 各都道府県測協：全国各地で開催

**これらの取組みを通じ実践し、魅力ある会社、魅力ある業界の実現を目指します。**



「女性の会」意見交換の様子

## ■ 社会貢献活動

毎年各地域において、

- ① 県下一斉の河川クリーンアップに参加。
- ② 「道の日」に合わせた道路美化作業に参加。
- ③ 災害発生時に自主撮影による航空写真等の空からの情報を被災地に提供 等。



河川クリーンアップの状況



空からの災害情報を提供

資料2

平成31年2月19日

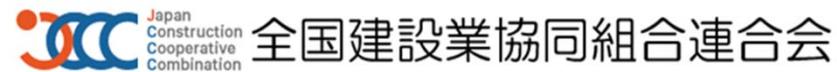
第2回建設現場で働く人々の誇り・魅力・やりがい検討委員会

全国建設業協同組合連合会 会長

青柳 剛

# 建設現場で働く人々の 誇り・魅力・やりがい検討委員会

平成31年2月19日 於 中央合同庁舎3号館4階（国土交通省）



# 「人を育てる 研修の場 知の集積拠点」としての新群馬建設会館 (一社)群馬県建設業協会

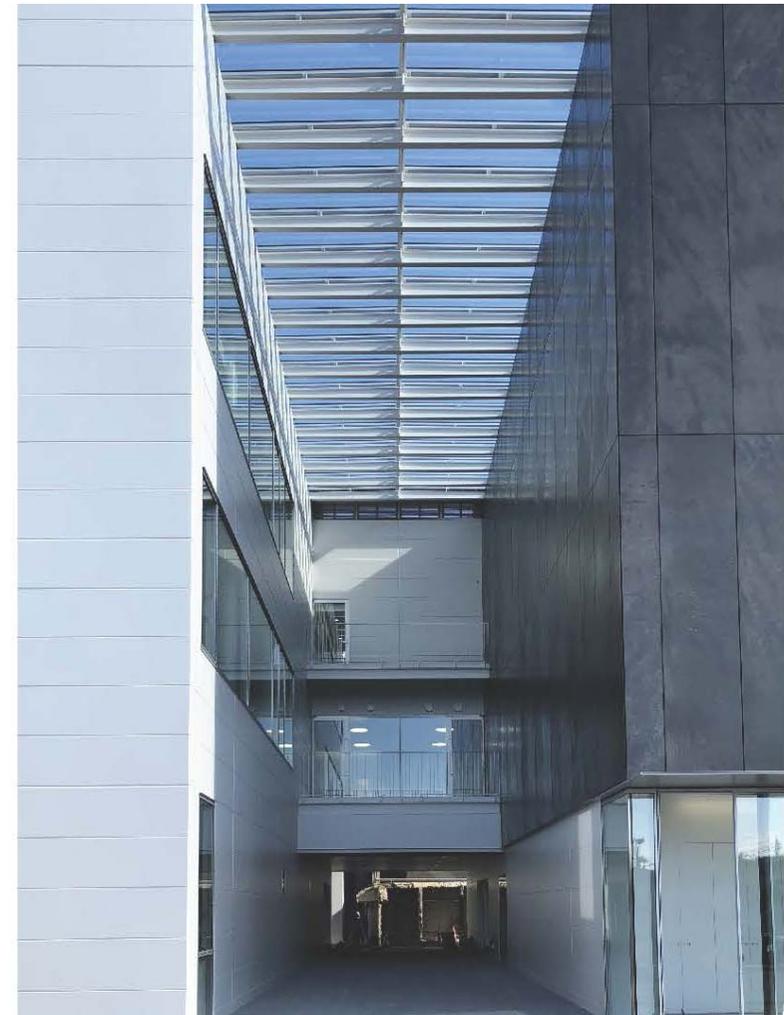
建設地 群馬県前橋市元総社町2丁目5番地3

建築主 群馬県建設事業協同組合  
(一社)群馬県建設業協会

構造規模 鉄骨造 地上3階建  
高さ14.2m 延床面積2,979.36㎡

用途 建設団体の事務所  
および建設関係者の研修施設  
ホール (200人収容)  
研修室1 (80人収容)  
研修室2 (20人収容)  
研修室3 (40人収容)

設計 代表者 (株)プランツアソシエイツ  
構成員 協同組合群馬県建築設計センター

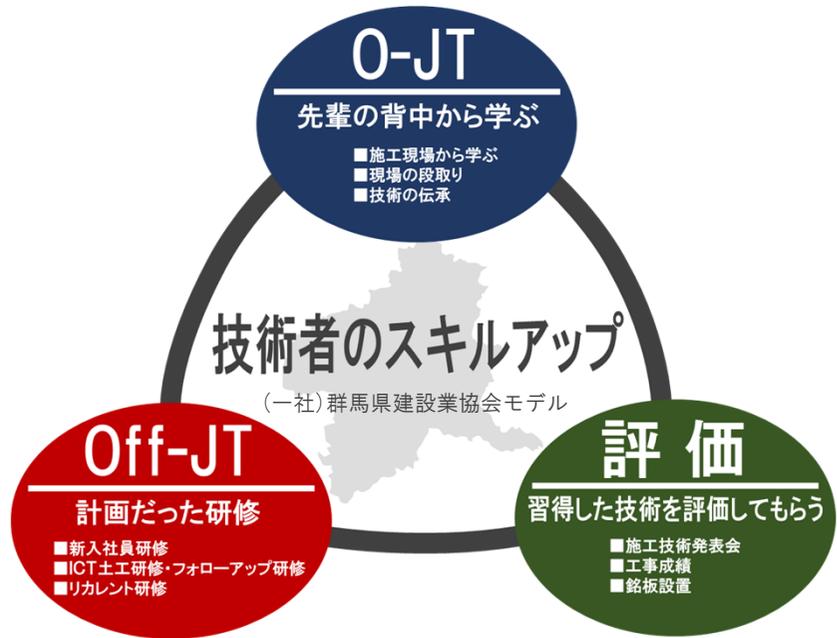


## 新群馬建設会館ファーストイベント／平成31年3月28日 開催 内藤廣氏 講演会 「建築家から見た建設業の問題」

内藤廣 (ないとうひろし) 建築家・東京大学名誉教授

1950年生まれ。1976年早稲田大学大学院修了。フェルナンド・イゲラス建築設計事務所、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1981年内藤廣建築設計事務所設立。2001～11年東京大学大学院にて、教授・副学長を歴任。2011年～同大学名誉教授。主な建築作品に海の博物館 (1992)、安曇野ちひろ美術館 (1997)、牧野富太郎記念館 (1999)、倫理研究所富士高原研修所 (2001)、島根県芸術文化センター (2005)、旭川駅 (2011)、静岡県草薙総合運動場体育館 (2015)、富山県美術館 (2017)、とらや赤坂店 (2018) などがある。





## 施工技術発表会 自社の施工技術を評価してもらう・他社の取組みを参考にする

- 会員企業の持つ施工能力や建設現場における様々な取り組み事例を紹介
- 技術力・提案力の向上と、社会資本の品質を更に高め、より安全で豊かな郷土の発展に寄与することを目的とする
- 最優秀賞×1社、優秀賞×2社、優良賞×5社を表彰
- 参加者数 約400名
- G K G (環境すみずみパトロール) コンテスト同時開催(快適職場を表彰)



第10回 施工技術発表会 (H30.11.21)

## リカレント研修 (学び直し研修)

企業単独では行うことが難しいリカレント教育を、群馬にいながらにして学べる  
スキルアップ研修 ～地域の人材は地域で育てる

- 全8回のカリキュラム
- 入社3年～5年次の技術者対象 (平成30年度の受講者は28名)
- 専門の講師による最先端の講義
- ICTやCIMなどのi-Constructionに向けた新技術のほか、「マネジメント力」「人材力」についても学ぶことができる



第1回/最新の測量測位技術の基礎 (H30.11.16)



第4回/三次元モデルの実用化 (H30.12.22)



修了式 (H31.2.15)



研修の場としての建設業協会	
3～5年次技術者対象 リカレント研修カリキュラム	
H30.10月現在	
第1回 11月16日(金)	<b>最新の測量測位技術の基礎</b> 講師 半谷一晴 <専門力> ■最新測量測位技術の習得① ■PBL問題発見・解決型学習 ■BIM/CIMについて
第2回 11月30日(金)	<b>人材力強化</b> 講師 徳コンサル 酒井勇貴/首都大学東京 国置安沙 <人間力> ■開講式 ■自己キャリアの振り返り ■自己診断エゴグラム ■スキルアップ目標の設定と確認 ■アクション(主体性・実行力・働きかけ力) ■チームワーク(柔軟力・発信力・傾聴力) ■アクション(リーダーシップ・フォローアップ・プロセスマネジメント・改善案の考え方) ■シンキング(計画力・創造力・課題発見力)
第3回 12月8日(土)	<b>最新の測量測位技術の応用</b> 講師 群馬工業高等専門学校 先村建雄 <専門力> ■最新測量測位技術の習得② ■PBL問題発見・解決型学習 ■映像 Value CIMの紹介
第4回 12月22日(土)	<b>三次元モデルの実用化</b> 講師 徳正治組 大矢洋平 <専門力> ■i-Construction基本知識 ■UAV/TLSによる測量・点群処理 ■GNSS測量 ■VR/ARIによるコラボレーション施工 ■ICT学習
第5回 1月12日(土)	<b>専門力:現場管理と仮設計画</b> 講師 ランパス 東和博 <専門力> ■現場管理のおさらい(品質・安全) ■仮設計画のポイント(仮設計画の出来不出来が現場管理に影響する) ■現場管理の演習(品質・安全) ■建設技術者・資格取得の動とこ
第6回 1月29日(火)	<b>マネジメント力:ICON工事と生産性</b> 講師 徳ホクコウ創研 矢野哲也/JME 高田守康 <マネジメント力> ■ICON工事の生産性向上 ■経済性分析 ■損得勘定と割前勘定、埋没費用、機会費用、手余り/手不足 ■ネットワーク工程表による工程管理(実習)
第7回 2月9日(土)	<b>マネジメント力:工程管理と原価管理</b> 講師 丹野晶平 <マネジメント力> ■工程管理のケーススタディ ■原価管理のケーススタディ ※自分が担当した工事の工程表、実行予算書を持参してください
第8回 2月15日(金)	<b>人材力強化</b> 講師 ..... <人間力> ■リーダーシップ(理想のリーダー像・リーダーシップの本質) ■チームビルディング ■マネジメント(管理と支援) ■コーチング、ティーチング、コンサルティング ■ファシリテーション、モチベーション、成果を出す思考法 ■メンタルヘルスマネジメント ■閉講式
主催 (一社)群馬県建設業協会 後援:国土交通省(予定)・群馬県	

プロジェクトの概要

建築設計・デザイン分野の学生たちと一緒に工事現場について考える

- 大学院生、大学生、専門学校生、高専生、高校生が対象
- 3人以上のグループで応募（各グループには指導教員が必要）
- デザインテーマ「工事中と人々を結ぶ装置」
- 審査委員長…古谷誠章／日本建築学会会長・早稲田大学理工学術員教授  
 審査委員 …宮崎桂／(株)KMD代表取締役・日本サインデザイン協会会長  
 …大西麻貴／o+h共同主宰・横浜国立大学客員准教授  
 …五道仁実／国土交通省大臣官房技術審議官  
 …北村知久／国土交通省大臣官房建設流通政策審議官  
 …佐々木基／(一財)建設業振興基金理事長  
 …藏谷伸一／全国建設業協同組合連合会副会長

■ 対象工事現場：桜美林大学 本町田キャンパス新築工事（2020年度開校予定）

- プロジェクトのポイント
  - ・ 建築的な思考を鍛えるのに役立つ
  - ・ 業界を代表する審査委員が評価する
  - ・ デザイン分野から建設業の魅力発信にアプローチする
  - ・ 建設業と学生の距離を縮めて、ものづくりの楽しさを身近なものにする

一次審査／平成31年1月25日

- 応募登録数…82グループ
- 作品提出…57グループ
- 一次審査の結果、11グループが選出
- 審査基準
  - ・ アイデアが効果的で独創的なものであるか
  - ・ 市民や子供たちにとってフレンドリーなものであるか
  - ・ 仮囲いの内側で働く人にとって働きがいを感じるものであるか
  - ・ 安全面、実現性などを含めて総合的なリアリティがあるか
  - ・ 建築業、建築関連産業の好感度を高めるものであるか

学生を対象とした  
一緒に考えよう「KOJICHUプロジェクト」  
**仮囲いデザインアイデアコンテスト**  
まちでみる建築現場はすべてが覆われた「わからない」世界。ものづくりはもとより、ダイナミックな世界は、そんな現場の仮囲い「装置」としてデザインして欲しい。アイデアが浮かんだら、友達や先生を巻き込んで参加しよう！

応募登録締切 平成30年12月10日(月)  
作品提出締切 平成31年1月21日(月)

「KOJICHUプロジェクト」のポイント

- 1 建築的な思考を鍛えるのに役立つプロジェクト！
- 2 業界を代表する審査委員に評価してもらえよう！
- 3 デザイン分野から建設業の魅力発信にアプローチ！
- 4 建設業と学生の距離を縮めて、ものづくりの楽しさを身近なものに！

デザインテーマ：「工事中と人々を結ぶ装置」 審査委員長 古谷誠章

たくく！工中の建物現場に囲まれ、足場や養生シートに覆われて中の様子を知ることができない。でもそれは現場の内側でも建設中の現場では大工さんの感嘆の手が探れ、手と手は力を合わせて、互いに支え合っている。そんな現場の仮囲い「装置」としてデザインして欲しい。アイデアが浮かんだら、友達や先生を巻き込んで参加しよう！

もう一度そんな工事現場が覆われないでほしい。それが今回の課題です。

仮囲いの現場では現場内の設備の見学コースや展覧台、また計画中の建物の外観をかついだ実際の敷地の風景など、様々な魅力的な「工事」の中に活かすことが出来ます。

工事現場を包み隠すのではなく、目を止らざる建築の魅力や力強さ、美しさを伝えるものになってほしい。そこに働く人々にとってはそれが働きがいとなり、それを支える人々にとっては建築が誇りと愛に繋がって行く様子を観賞する機能となるようなアイデアを期待します。

グラフィックなどの平面表現のデザインを越えて、「工事中」の人々を結びつければ最高のデザインを期待しています。

主催：全国建設業協同組合連合会  
協賛：(株)KMD代表取締役 日本サインデザイン協会会長  
後援：(一財)建設業振興基金理事長

問い合わせ先：101-8021 東京都港区中野2-3-1 東京建設会館 TEL 03-3532-6567  
http://www.kojichu.or.jp kojichu@koyamemaru.or.jp

募集チラシ

コンテストは、「KOJICHUプロジェクト」と銘打ち、仮囲いが建設業や工事現場の魅力を支えるための「観賞席」となるようなデザインを求める。会場が東京都町田市で進めている桜美林大学の「(仮称)本町田キャンパス新築工事」の現場にある仮囲いがデザインの対象。古柳会



全建協連 KOJICHUプロジェクト

仮囲いデザインアイデアコンテスト



長は「安全を理由に仮囲いが建設業の見せ場を隠すにすぎている」と指摘する。コンテストは建設業の魅力を高める全建設業の取り組みの一環で、「若い人の感性による自由な発想の作品がたくさん出てきてほしい」と期待を寄せた。

審査委員長は「建築設計やデザインの専門家、国土交通省幹部などが務めるその一人、建築学会長の古谷誠章氏は、仮囲いについて「匠気が伝わらない。迷惑の塊を包んでいるように思われていたら残念」と語る。建築家で横浜国立大学客員教授の大西麻貴氏は「安全を理由に仮囲いが建設業の見せ場を隠すにすぎている」と指摘する。コンテストは建設業の魅力を高める全建設業の取り組みの一環で、「若い人の感性による自由な発想の作品がたくさん出てきてほしい」と期待を寄せた。

「完成までのプロセスが見えず」「ハコモノ」という呼称について、古谷氏は「建築設計やデザインの専門家、国土交通省幹部などが務めるその一人、建築学会長の古谷誠章氏は、仮囲いについて「匠気が伝わらない。迷惑の塊を包んでいるように思われていたら残念」と語る。建築家で横浜国立大学客員教授の大西麻貴氏は「安全を理由に仮囲いが建設業の見せ場を隠すにすぎている」と指摘する。コンテストは建設業の魅力を高める全建設業の取り組みの一環で、「若い人の感性による自由な発想の作品がたくさん出てきてほしい」と期待を寄せた。

見せ場隠さず現場の面白さを伝えて

高橋氏は「職人が生き生きと働き、建設が進む様子を外からも感じてほしい」と賛意を表す。大西氏も「街に生まれる建築に興味を持ってほしい」と期待を寄せた。古谷氏は「建設現場を包み隠すのではなく、目を止らざる建築の魅力や力強さ、美しさを伝えるものになってほしい。そこに働く人々にとってはそれが働きがいとなり、それを支える人々にとっては建築が誇りと愛に繋がって行く様子を観賞する機能となるようなアイデアを期待します。」

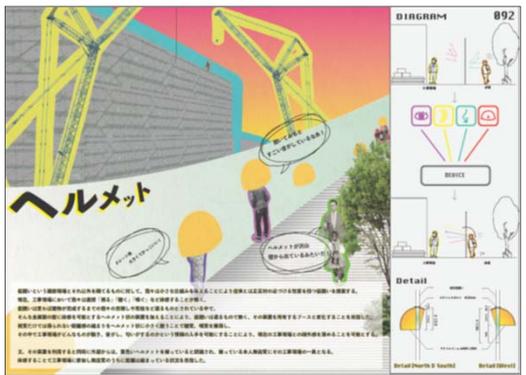


「ユニホームは実際に着用」ユニフォームデザインプロジェクトは「わくわくする建設業」を目指す。「自信と誇りを着る」をコンセプトに東京モード学園の学生からデザインを募集した。レーシングスーツがモチーフの男性用、赤・白・黒のデザインと視認性の高さが特徴の女性用の作業着をそれぞれ最優秀賞に選定した。プロジェクトは、「業界全体のイメージアップを図る画期的な取り組み」（毛利君二前国土交通事務次官）と高く評価された。6着の作業着が実際に仕立てられ、女性用の最優秀賞作品は群馬県建設業協会が会員企業の女性職員に着用してもらっている。

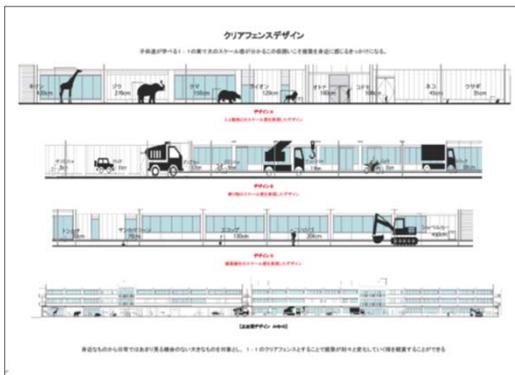
おしゃれポジティブインスタ映え…

公開最終選考会／平成31年2月14日

- 各グループがそれぞれの作品についてプレゼンテーションを行う
- 最優秀賞×1グループ、優秀賞×1グループ、入選×5グループを選出



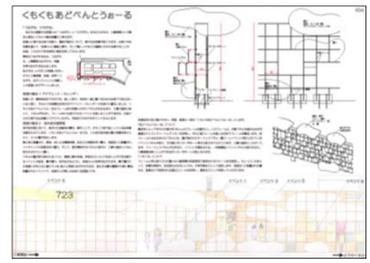
【最優秀賞】武蔵野美術大学



【優秀賞】群馬日建工科専門学校



【入選】徳山工業高等専門学校



【入選】武庫川女子大学



【入選】椋山女学園大学・神戸大学



【入選】長岡工業高等専門学校



【入選】館林商工高等学校

